



るうてる

箱崎群教会共同体版

一月報 メッセージと証し

発行 日本福音ルーテル箱崎教会
代表者 牧師 和田 憲明
〒812-0053 福岡市東区箱崎 3-32-3
TEL (092) 641-5440
【箱崎教会・恵泉幼稚園】



【聖ペテロ教会】



【奈多愛育園・るうてる愛育園】(保育園)



3つの園より 卒園された子どもの保護者の方々が「証し」(神さまからの自身への働きかけ)を寄稿くださいました
感謝しつつ おかちします(わ)

『ここにいる』

M・F
(恵泉幼稚園保護者)

この春3月に、長男は恵泉幼稚園を卒園しました。幼稚園では、たくさんの先生やお友達に囲まれて讃美歌を歌ったり聖書の言葉を覚えたり、イエス様のお話を聞いて過ごしました。私も母になる前に、恵泉幼稚園で先生として子どもたちと一緒に長男と同じように幼稚園生活を過ごしました。また、先生の頃には色々な個性や特性のある子どもたちとも関わり、日々子どもたちから学ぶことが多かったです。子どもに関する本も色々読みました。

そして、長男が産まれて9ヶ月頃くらいから生活の中で『ん?』と思うことが出



てきました。長男と顔を合わせても目線が合わなかったり後追いをしなかったり、車のおもちゃをきれいに一列に並べたり、歩けるようになると自分の中で決まった道順があり、その通りに歩かないと癇癪を起こすこともありました。車道に飛び出すことも多々ありました。私は、そんな長男の姿を見て『この子には発達に特性があるな〜』と気づきました。これから先のことを考えると不安になり気持ちが沈むこともありました。けれども、そんな時に幼稚園で聞いた聖書の神は耐えられない試練を与えないことの話しを思い出しました。きっと神さまは、『この子の特性を受け入れて、幼稚園で学んだことを活かしながら育ててみてごらん。』と私に試練をくれたんだと思い、そう思うことで気持ちが落ち着いて『この子と一緒に頑張ろう!』と前向きな気持ちになることが出来ました。

それからは、長男がどうしたら癇癪をなるべく起こさずに一日を気持ちよく過ごせるか試行錯誤する日が続きました。一日のスケジュールの絵カードボードを作ったり、気持ちの切り替えがスムーズにいくようにタイマーを使ってみたりと色々試しました。しかし、上手くいくことは少なく…思ってもいないところで癇癪を起こして、どうしたらいいのか分からず心が折れそうな日のほうが多かったです。その度に聖書の試練の話しを思い出しては『また頑張ろう』と立ち直ったり、自ずと幼稚園に足を運びたくなり長男と



一緒に行っては、心が癒され元気をもらって帰ってきてました。

2歳半になってからは、療育に通うようになりました。療育では、少しずつ自分以外の人に関心を持てるようになりました。私も色々なアドバイスをもらい、少しずつ長男の特性をつかめるようになりました。大変なことは日々ありましたが、以前より心が折れそうなほど苦しくなることは少なくなりました。また、長男に話しかけて数秒でしたが、目を合わせて話しが出来た時はとても嬉しかったです。

3歳になり長男は幼稚園に入園しました。この頃は久留米に住んでおり、年中組の1学期まで久留米のルーテル教会の幼稚園に通ってました。そして、転勤の都合で恵泉幼稚園に転園してきました。長男も私も、久留米の幼稚園でも恵泉幼稚園でもあたたかく受け入れてもらい、たくさんの先生たちに支えられて幼稚園生活を過ごすことが出来ました。

幼稚園生活では、集団での活動が苦手に参加することが難しいこともありました。みんなが楽しく頑張っている中で長男は端でなかなか参加出来ない姿を見ると、頭の中で長男のことを理解していても心の奥では、みんなの姿を羨ましく思ってしまう、気がつくとな涙が出ることもありました。でも、そんな時こそ幼稚園で先生や牧師先生がいつも話してくれる『ここにいる。ってことが大切』『あなたはあなたのままでいいんだよ』の言葉が、いつも私の辛い気持ちをなくし救ってくれていました。長男は長男なりにここにいて頑張っていることを先生もお友達もそして神さまも、みんなが理解してくれ

て優しく見守ってくれた幼稚園生活は、私たちにとってかけがえのない3年間となりました。そして、これから成長していく中で困難なことにあっても『ここにいる』『あなたはあなたのままでいい』と心の支えとして生きて欲しいと思います。

一緒に子育てをしてくれた 奈多愛育園

Y・T (奈多愛育園保護者)

私は娘が0歳6ヶ月の頃から奈多愛育園にお世話になりました。

通い始めた当初は何度も熱を出し感染症にも罹り、仕事を早退して迎えに行きました。

本当にこれで良かったのか。家で一緒に居た方が娘のためになるのでは。と何度も思いました。

しかし先生方は「今日はこんなことが出来ました。」「こんなことがあって可愛かったです。」

と娘の成長を喜んでくれ応援してくれました。

私自身がまだこれで良かったのかな、と迷っているあいだに娘はどんどん成長し、

私の心配をよそに保育園生活を楽しみ、毎日今日あったことを話してくれるようになりました。

娘は先生方のことが大好きで先生からこんなことを聞いたよ。と教えてくれることの中には私自身もハッとさせられる言葉もたくさん

あり、ここに預けて良かったな、間違っていたな。と思えるようになりました。



ひとりひとりをたいせつに

奈多愛育園

行事の度に成長した姿を見せてくれました。園で見る娘はいつもよりしっかりと大きく見え、成長を感じ安心するとともに少し寂しい気もしました。

私たち親だけでは経験させてあげられないことを保育園でたくさん経験し、そこから娘は大切なことをたくさん学んだと思います。

娘は4月から小学校に入学しますが、奈多愛育園で学んだことは必ず娘にとって財産になると思います。

親子ともに成長させていただけた奈多愛育園での思い出を胸に、これからも頑張っていこうと思います。

本当にありがとうございました。

運動会の思い出

T・K (るうてる愛育園保護者)

息子がるうてる愛育園に入園してから、こうして卒園の日を迎えるまでの日々を思い返すと、本当に様々なことがありました。息子が初めての体験にひとつひとつ向き合っていく姿や、それを通して成長していく様子に、私たち夫婦も励まされたり涙したりしました。どの思い出もかけがえのないものですが、特に印象的なのは、最後の運動会のことです。

元々恥ずかしがり屋な息子です。たくさん大人の大人が集まるなど、普段と違う状況では恥ずかしがって固まってしまうのですが、最後の運動会では、かけっこやリレーを堂々と、そして一生懸命に走り抜いていました。そのときの誇らしげな表情に、いつの間にこんなに大きくなったのだろうと驚きました。年長とな



った今年は「光組だから、頑張る！」と、自分で自分を奮い立たせていたようです。親が「お兄ちゃん



なんだから」とか「もう年長なんだから」などと言わなくても、自分から新しい一步を踏み出そうと背伸びをしてみる。そうした自立の姿勢は、るうてる愛育園での生活の中で培われていったものだと思います。

そんな息子の気持ちを汲んでか、担任の先生がリレーのアンカーに息子を指名してくださいました。「やってみよう、頑張ってみよう」という子どもの意思を尊重し、活かす場所を与えてくれる園で過ごせたことに、感謝するばかりです。

自分なりに挑戦した運動会の思い出は、息子にとっても大切なものになったようです。配られたメダルを、運動会のあともしばらくは首にかけて外出していました。自分が起こした行動で、なにかを達成すること。そして、それが人から認めもらえること。これらの経験が、今後も息子の心に残り、彼を支え続けてくれるのではないかと感じています。

息子のこれからの人生を想像するとき、イエスの「あなたがたは地の塩、世の光である」という語りを思います。人は影響し合います。そして、誰もがかけがえない存在です。園で出会ったお友達や先生方が、息子に良い影響を与えてくださったように、息子もまた、誰かに優しさを持って接することができ、必要とされる人でありますように。園でいただいたたくさんの愛情を胸に、息子自身も愛を与えられる人になっていけることを願います。

3年間、たいへんお世話になりました。抱えきれないほどたくさんの思い出をくださったるうてる愛育園と、息子に関わ



ってくださったみなさまに、心から感謝を申し上げます。